

《目次》P1…失語症友の会「ふじやま」設立集会 P2…「ふじやま」設立集会に参加して P3…第11回学術大会大会長挨拶
P4～6…新入会員紹介 P7…いきいきやまなしねんりんピック参加記 P8…HUG参加記・施設紹介
P9…日本言語聴覚学会発表報告 P10…理事会報告 P11…各局からのお知らせ



失語症友の会「ふじやま」設立集会

失語症友の会「ふじやま」運営委員長 池神 多加子（湯村温泉病院）

1人ひとりのための友の会 — 晴れ晴れした顔があふれる設立集会でした。

平成30年7月7日、当会は失語症友の会「ふじやま」を設立しました。この日、何が始まるのか、何が出来るのか…様々な想いを抱えながら当事者、家族、ケアマネージャー、学生、言語聴覚士、総勢50名が参加されました。当日は、日頃より友の会活動に携わり失語症のある方やご家族を支えてこられたお二人の先生をお招きすることができました。日本失語症協議会副理事長の園田尚美先生からは「～明日に向けて、一歩を踏み出す仲間のカ～友の会に欠かせない支援の輪」と題し、また東京慈恵会医科大学付属第3病院リハビリテーション科診療部長の渡邊修先生からは「失語症の回復を促すために」と題し貴重なご講演をいただきました。先生方の言葉は温かく、参加者の胸に心強いエールとして響きました。

その後、当事者の方々の『自己紹介』-①名前を書いて名札を作る②発症からの年数を数字カード併用で伝える③ご自身が住んでいる場所を地図で探しシールを貼る- 向けられたマイクに照れながらも各々の伝え方で自己紹介をしてくださる姿に引き込まれ、会場全体が笑顔になりお互いの距離は一気に縮まりました。さらにご家族、ケアマネージャーからもこれまでの経過や現在の様子を聞くことが出来ました。失語症の回復と生活の中で起こる問題に直面してこられたご家族の話に、当事者のみならずご家族の為の友の会でもあることを強く感じました。

現在、NPO法人全国失語症協議会に加盟されている友の会は100団体以下と減少傾向にあり、山梨県においても活動している友の会は2団体となっています。また平成29年度に当会会員に実施した「失語症友の会活動についてのアンケート」では、友の会活動への参加について、参加したい・機会があれば参加したい（82%）に対し、余裕がない（63%）・開催の情報がない（29%）との結果が出ています。地域に戻られた失語症のある方・ご家族にとって友の会の存在や活動の必要性が高い状況に比し、医療現場で働く言語聴覚士が長期的な言語機能やコミュニケーション能力の変化およびその時々心理的な状況を追う機会は少ない現状にあります。友の会活動を通して失語症のある方の実生活でのコミュニケーション状態を知ることが出来ます。生活期リハでの具体的な目標設定や適切な助言・指導を行える力を養いながら、地域包括ケアシステムにおける言語聴覚士が果たす役割を理解し実践できるような活動を展開していきたいと考えています。

『生活の中に感動と喜びを～ここからはじまる地域とのつながり～』をスローガンに、職能団体の責任として全県下へ活動を広げながら失語症のある方々の出番作りと友の会活動の活性化を図っていきたく思います。閉会時には、次回も参加したいと早くも活動への意欲を持って下さった方が多かったことを嬉しく心に留め、その期待に応えられるようしっかりと「ふじやま」を軌道に乗せていきたいと思っています。

「ふじやま」設立集会に参加して

平成 30 年 7 月 7 日、国立病院機構甲府病院にて、失語症友の会「ふじやま」の設立集会が開催されました。当日は、失語症の方々やご家族、当士会会員など 50 名が参加され、日本失語症協議会の園田尚美様、東京慈恵会医科大学付属第 3 病院リハビリテーション科診療部長の渡邊修先生をお招きしてご講演を聴くことができました。また、失語症の方同士の交流が深まるよう、県士会員が失語症の方のコミュニケーションをサポートしながら、自己紹介などを通じたレクレーションが行われました。



左から渡邊先生、園田様、内山会長

巨摩共立病院 市川 奈弥

園田尚美様には、失語症友の会の発足について、失語症協議会の事業・歩みについてお話をいただきました。失語症者のご家族としての様々な苦勞、また失語症友の会には ST が大事な存在であることを教えていただきました。

渡邊修先生には、失語症の回復を促すためにというテーマで、脳が回復するために必要なリハビリテーションや最適な環境作り・支援についてお話をいただきました。ST として患者さんのニーズをしっかりとくみ取ったリハビリテーションを提供できているだろうか。障害や症状を家族やチームメンバーに正しく伝えられているだろうか。失敗ではなく成功できるような環境作りができていないだろうか。改めて自分の臨床のあり方、失語症の方の支援について考える事ができました。



左から園田様、渡邊先生の講演の様子



自己紹介中に出身地を探している様子

今回、担当していた患者さんご夫婦と一緒に、ふじやまに参加させていただきました。いつも笑いの絶えない素敵なお夫婦ですが、失語症になってからの経過を涙ながらに語ってくださいました。以前から山梨県失語症者のつどいに参加し、南アルプス市でも失語症者の友の会ができるといいねと話をしていました。今回このご夫婦が友の会を望んでいた理由を知ることができました。途中、近所に失語症のご家族がいることを知ると、すぐに「大変だったよね。これからはがんばろうね」と握手をし、お話をしていました。わかりにくい障害がゆえの苦勞をわかり合える仲間、お互いに頑張ろうと励ましあえる仲間の存在が必要だったことを教えていただきました。その後も、「よかった。これからは参加するので、絶対に声をかけてね」と仰ってくれています。今後もこのご夫婦と、さらに輪を広げ、ふじやまの活動に参加していきたいです。

第 11 回学術大会 大会長挨拶

国立病院機構甲府病院 小池 京子

この度、一般社団法人山梨県言語聴覚士会第 11 回学術大会を平成 30 年学医学部キャンパスにて開催させていただくことになりました。平成 20 年度に第 1 回の学術大会が開催されてから、毎年、県士会の柱となる事業として、継続されております。昨年度は当士会の内山量史会長が大会長を務められた第 2 回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会にて、節目となる 10 回目の学術大会を迎えました。



この 10 年の間に社会制度は激変し、私たち言語聴覚士の職域においても、果たすべき役割が急速に拡大しております。昨年度より国の必須事業として本格的に取り組まれている「失語症者向け意思疎通支援事業」では、意思疎通支援者の養成や個人派遣にあたり失語症のある方の障害特性の評価を言語聴覚士の役割としています。また今年度、当士会は失語症友の会「ふじやま」を設立し、運営に携わるといふ新たな事業を展開しております。このような時代の流れを踏まえ、言語聴覚士という職業の本質を見つめ直し、社会貢献が期待される我々の専門性を一緒に考えたいとの思いから、今大会のテーマを「言語聴覚士の本質～言葉を紡ぎ・未来を創る～」といたしました。言語聴覚士は、コミュニケーションを支える専門職であることを再確認できる機会になると確信しています。

特別講演では、春原則子先生（目白大学）をお招きし、「言語聴覚士の本質～すべては幸せな臨床のために～」と題してご講演いただきます。臨床、研究、そして現在は未来の言語聴覚士を養成していらっしゃるお立場から、臨床に示唆を与えていただくお話が伺えると思います。また教育講座では、日本言語聴覚士協会の認定言語聴覚士（失語・高次脳機能障害領域）を取得された 2 名の先生に「高次脳機能障害の評価とリハビリテーションの実際」と題しお話いただきます。一般演題では 8 名の先生方に臨床や取り組みの成果についてご発表いただきます。ぜひ、活発なご討議をお願いいたします。

昼休みには例年通りチャリティバザーを行ないます。新たなチャリティ商品や企業展示、施設紹介もございますので楽しみにしてください。

新たな 10 年に向けての第一歩となる第 11 回学術大会が実り多きものとなりますよう、ご協力とご参加を心よりお願いいたします。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、準備を進めていただいております実行委員の皆様へ深く感謝申し上げます。

平成30年度

新入会員紹介



春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

斉藤 健 (さいとう けん)

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 ST 科 1 年の斉藤健です。趣味は音楽鑑賞や散歩です。音楽ではジャンル問わず何でも聞きますので、色々教えていただければありがたいです。自分が ST を目指した理由は近所の方が失語症で ST からリハビリをしてもらっていることがきっかけでした。人間としての楽しみを少しでも取り戻し、一人でも多くの患者様に寄り添うことが出来る ST を目指しています。よろしくお願いします。



春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

野村 美咲 (のむら みさき)

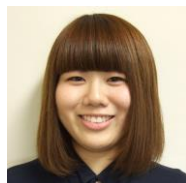
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院の野村美咲です。群馬県出身です。好きなことは、食べることと出かけることです。山梨に来てから、おいしい物を沢山食べることができて、日々幸せを感じています。STとして働き始め、7ヶ月が経ちました。悩むことも多いですが、患者さんの笑顔に元気をもらっています。これからも、STとして、人として成長できるよう頑張っていきたいです。よろしくお願いします。



甲州リハビリテーション病院

海野 友希 (うんの ゆうき)

出身地は静岡県袋井市です。祖父母が山梨県に住んでおり、幼少期から山梨県に遊びに来ることが多くありました。入社して半年が経ちますが、学ぶことは多く日々勉強しています。まだ慣れないことが多く、先輩方や患者様から様々なことを学んでいます。目標である、患者様の心に寄り添っていけるような言語聴覚士になれるよう日々精進して参りますので、ご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



甲州リハビリテーション病院

大室 陽佳 (おおむろ はるか)

出身は、ねぶた祭りやリンゴで有名な青森県出身です。青森県の中でも最北端にある下北半島と言うところに住んでおり、そこは大間のマグロが有名です。入社して、半年が過ぎ慣れてきたことも多いですが、まだまだ未熟なところばかりです。先輩方から多くの事を学ばせて頂き、1人でも多くの患者さんの笑顔が見られるように日々精進していきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



甲州リハビリテーション病院

甘利 卓也 (あまり たくや)

今年度から甲州リハビリテーション病院で働かせて頂いております、甘利卓也と申します。出身は山梨県甲州市の山や川に囲まれた田舎です。趣味は旅行や温泉に入ること、そして散歩をしながら星を観ることです。

一番興味のある分野は摂食嚥下です。また、現在は成人領域のリハビリテーションをさせて頂いておりますが、小児領域にも興味があります。どうぞこれからご指導の程をよろしくお願い致します。



甲府共立診療所

増田 歩実 (ますだ ふみ)

今年から甲府共立診療所に入職しました言語聴覚士の増田です。お子さんとのリハビリが楽しく、千葉県から参りました。山梨に縁もゆかりも無かった私ですが、お子さんと優しい先輩方のおかげで日々の仕事を楽しむことができています。県士会でも小児に関する勉強会が多く開催されているので、これから学んでいくことをとても楽しみにしております。今後ともご指導のほど宜しくお願いいたします。



甲府城南病院

吉澤 恵介 (よしざわ けいすけ)

出身は東京都江東区です。他の都道府県と比較して研修体制が充実している山梨県で言語聴覚士としてのスタートを切りたいと考え、就職しました。先輩方からアドバイスを頂きながら日々の臨床に励んでいますが、至らぬ点が多く、理論や根拠に基づいた知識や技術の習得が必要と感じております。日々精進し、皆様のような言語聴覚士になれるよう成長していきたいと考えております。よろしくお願い致します。



甲府城南病院

秋山 仁哉 (あきやま じんや)

出身地は山梨県中央市です。国際医療福祉大学で学び、大学のある栃木県から故郷の山梨県に戻ってきて半年が経ち、業務に慣れ始めてきた一方で、分からない事ばかりなので日々勉強の毎日です。少しでも早く先輩たちに追いつけるよう、小さなことからコツコツと努力していきたいと思います。また、山梨県の言語聴覚士として故郷の力になれるよう、県士会の活動にも積極的に参加させて頂きたいと思っています。宜しくお願い致します。



甲府城南病院

塩澤 亜希 (しおざわ あき)

今年度、甲府城南病院に入職しました塩澤亜希です。出身は、山梨県の甲府市です。私の座右の銘は、「怠る者は不満を語り、努力する者は夢を語る」です。この言葉は、中学のときに部活動の先生が仰っていた言葉で、忙しく余裕が無い時に思い出して、常に、夢を語るようにありたいと思っています。地元である山梨の医療に貢献できるよう日々精進していきたいです。これからよろしくお願い致します。



甲府城南病院

市野 直樹 (いちの なおき)

出身は愛知県で、学生の頃から車やバイクで遠出することが趣味です。夢であった言語聴覚士となり、学生時代に想像していたよりも大変な事は多いですが、それ以上にこの職業の魅力を実感しています。患者様との関わり方や訓練プログラムの立案など、難しいことが多く、知識も経験も足りていない為、常に勉強していく姿勢を忘れないように心掛けていきます。よろしくお願い致します。



恵信甲府病院

大野 憲太 (おおの けんた)

今年度から山梨県言語聴覚士会に入会させて頂きました。恵信甲府病院の大野憲太です。出身は栃木県出身です。今年の春に国際医療福祉大学を卒業して言語聴覚士になりました。小学生から野球をしており、今でもプロ野球の観戦によく行きます。最近自分では出来ないため、山梨県でまた野球をやりたいです。まだまだ未熟ですが先輩たちの指導の下、明るく元気に頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。



石和共立病院

秋山 遥 (あきやま はるか)

出身は静岡県磐田市です。海が近く、家にいても潮騒が聞こえる環境で育ちました。山が近い環境をとっても楽しみに思っており、山梨県での生活は充実しています。嚥下分野への興味があるため、嚥下障害に対する理解を深めていきたいと考えています。1人前のセラピストとなるように日々努力して臨床を行っています。



ツル虎ノ門外科・リハビリテーション病院

江頭 希 (えがしら のぞみ)

約一年半前、自然の豊かさを求めて横浜から山梨に移住してきました。

昨年度は同グループであるツル虎ノ門外科病院（静岡）にいましたが、今年度から山梨県での配属となり、山梨県言語聴覚士会に入会させていただきました。入会して一番に感じたことは、研修会や講座等の多さです。この豊富な機会を無駄にせず、皆様のお力添えをいただきながら知識や経験を重ねて参りたいと存じます。よろしくお願ひ致します。



山梨県立中央病院

萩野谷 巧 (はぎのや たくみ)

今年から県立中央病院で働かせて頂いています。出身地は埼玉県の川口市です。出身校は池袋の帝京平成大学です。山梨県に来たのは大学の先生に紹介されたことがきっかけで、病院だけでなく、自然豊かな環境にも惹かれました。職場の先輩方に毎日迷惑をかけてしまっていますが、たくさんのことを学び、良いリハビリが行えるように研鑽していきたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。



山梨リハビリテーション病院

石垣 亮太 (いしがき りょうた)

今年から山梨リハビリテーション病院に入職いたしました石垣亮太と申します。今年で 11 年目になります。初めての山梨県での生活だったため、今年の暑さには参りました。しかし、少しずつ慣れていかなければならないと思ひています。

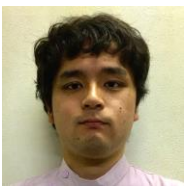
県士会での活動を通して、多くの方から多くの学びが得られると良いなと思ひています。これから、お世話になります。よろしくお願ひ致します。



湯村温泉病院

板山 晶子 (いたやま あきこ)

湯村温泉病院に昨年 11 月から勤務しています。出身は長野県飯田市です。出身学校は日本聴能言語福祉学院です。趣味はまんがや小説を読むことです。以前は長野県の小規模ながら回復期病棟・急性期病棟・療養病棟のある病院に勤務していました。今年で言語聴覚士 9 年目となりましたが知らないこと・分からないことがまだまだ多く、日々臨床の中で学ぶ事が多いです。よろしくお願ひ致します。



湯村温泉病院

大柴 慎之助
(おおしば しんのすけ)

湯村温泉病院 ST の大柴慎之助です。山梨県出身の 24 歳で昨年まで神奈川県に住んでいました。性格は真面目で、淡々していると言われることが多いです。趣味はスポーツ観戦、映画鑑賞、読書です。趣味に没頭して夜更かしをしてしまうことも多々あります。今まで教わったことを活かして、少しずつ新しいことを吸収し沢山学んで成長していければと思ひています。宜しくお願ひ致します。



湯村温泉病院

望月 理恵 (もちづき りえ)

出身は、山梨県甲府市です。趣味は歌を歌うこととバドミントンをする事です。東京医薬専門学校で学び実習先である湯村温泉病院に就職致しました。山梨県は、勉強会なども多いので、積極的に参加しながら様々なことを学んでいきたいと思ひます。そして、臨床現場で活かしていけるようにしていきたいです。笑顔を忘れず自分らしく頑張っていきたいと思ひます。ご指導よろしくお願ひいたします。

いきいきやまなしねんりんピック参加後記

平成 30 年 9 月 29 日(土)に小瀬スポーツ公園に於いて「いきいきやまなしねんりんピック」が開催され、 当士会からも PR ブースの展示を致しました。

甲府城南病院 佐藤 淳貴

今年は台風が迫り、雨が降る中での開催でしたが、ST のブースでは昨年同様ピークフローメーターによる咳漱力の測定を実施し、およそ 150 名の方に来て頂くことが出来ました。咳漱力には基準があり、240ℓ/分以上必要で、これより少なくなると体調がすぐれない時に痰を出す事が困難となるといわれています。当日は、周囲のブースの中でも一際盛り上がり、結果を説明した際には「えー、どうしよう」「安心したわ」など一喜一憂する声が聞かれ、誤嚥性肺炎に対する世間の関心の高さを感じました。

しかし、アンケートで知っている医療職種を尋ねると言語聴覚士のみ知らないと答えた方も多く、言語聴覚士の認知度の低さを改めて実感しました。同時に、「すごく大事だから」「もっと広報して」といった励ましのお言葉を何度も頂き、言語聴覚士の必要性や広報活動の重要性を強く感じる事ができました。

今後、言語聴覚士としての臨床技術を磨いていくとともに、広報活動にもより一層力を入れていきたいと思えます。今回のねんりんピックへの参加は、自分にとって大変有意義な時間となりました。



上：ピークフローメーターによる咳漱力測定の様子
下：参加者に配布した吹き戻しと資料



平成 30 年度山梨県リハビリテーション専門職団体協議会 災害対策支援委員会研修会～避難所運営ゲーム HUG～参加記

山梨大学医学部附属病院 赤池 洋

平成 30 年 8 月 28 日、山梨県立中央病院多目的ホールにて平成 30 年度山梨県リハビリテーション専門職団体協議会災害対策支援委員会研修会～避難所運営ゲーム HUG～が開催されました。近年、日本は多くの災害に見舞われ、災害時には多くの被災者が避難所での生活を強いられることが予測されます。本研修会では発災後に開設されます避難所の運営を疑似体験出来るゲームを通じ、災害時の出来事にどう対応していくのかを体験することを目的とし、山梨県の協力を得て開催されました。研修会は過去の研修会アンケートにて災害リハの活動にご協力を頂ける方を対象に開催されました。当日は 27 名（ST5 名、PT、OT、医師、看護師、介護支援専門員）が参加され、早急な対応が求められる環境の中で各グループ内ではお互いに意見を出し合い、より実践に特化した研修会となりました。研修会を通して災害について考える大変貴重な機会となり、これからも災害に対して真摯に向き合い研修会等に参加していきたいと思ひます。



施設紹介

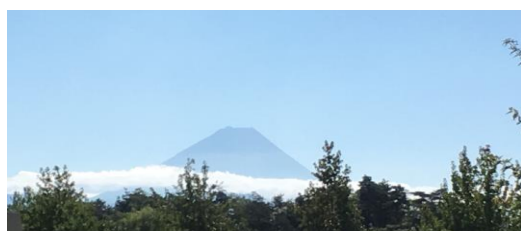
山梨県立あけぼの医療福祉センター成人寮「アドバンテージあさひ」
自立訓練支援課 岩崎 由佳

当施設は、韮崎市にある障害者支援施設です。ここでは自立訓練、生活介護、施設入所、短期入所事業を実施していますが、県内の障害者支援施設で自立訓練(機能訓練)事業を行っているのはここだけとなっています。

自立訓練事業は、障害のある方に対して、自立した日常生活・社会生活ができるように一定期間、身体機能または生活能力の向上のために必要な訓練を行っています。現在、OT 1 名、PT 1 名、ST 1 名(非常勤)の体制で利用者様へ関わらせていただいています。

利用されている方の大半は 60 歳以下の方です。施設は広くゆったりとした構造で、部屋はプライバシーの守られた個室となっています。スケジュールは利用者様にあわせてゆったりと関わることができ、笑顔あふれた利用者様が多いところです。

施設は住環境から離れているため静かで、富士山、ハケ岳が眺められるいい場所です。皆さんぜひ一度お越しください！



第19回 日本言語聴覚学会発表報告

甲府城南病院 河村 有美

第19回日本言語聴覚学会（平成30年6月22日・23日、於富山県民会館、富山国際会議場）に参加しました。今年は、学会長を（一社）富山県言語聴覚士会 元会長の中野徹先生が務められ、「言語聴覚療法の源流と未来」をテーマに様々な講演、演題発表がありました。中でも石合純夫先生の特別講演では、ヒトの言葉の獲得過程や言葉話すための脳の仕組みを解剖学的、生物学的視点から学ぶことが出来、大変興味深かったです。

また、本学会では「右半球損傷により失文法を中核症状とした交叉性失語を呈した一症例」という演題で、症例の症状を中心にポスター発表を致しました。昨年度の電子ポスターと違い、間近で内容を伝えられる反面、ポスターを指しながらの発表は思った以上に難しかったです。さらに他の先生方の発表をお聞きし、内容に加えポスターの構成の仕方や配色、グラフや写真の効果的な使い方など、多くを学ぶことが出来ました。今回、発表を通して得たことを次回の発表に活かしていきたいと思います。



甲州リハビリテーション病院 赤池 絢

平成30年6月22日・23日の2日間にわたり「第19回日本言語聴覚学会」が富山市にて開催されました。

今回、私は「発話場面でピッチアクセント異常を認めた失語症の一例」について発表させて頂きました。日本言語聴覚学会での発表は今回で二度目でしたが、抄録の作成では、限られた文字数で言いたい内容をまとめることの難しさを痛感しました。実際の発表では、著名な先生方の前での発表にとっても緊張しました。質疑応答では、質問に的確に答えることの難しさを感じ、これからの自分の課題としていきたいと思いました。発表までの準備は大変でしたが、何度も症例の発話を聞き返すことで新たな特徴に気づく事ができ、失語症臨床の面白さも味わうことができました。発表を通して多くの課題に気づけたことは、とても貴重な経験となりました。今回の経験を活かし、より言語聴覚士として成長し、患者さんへ還元できるよう、努力していきたいと思います。



学会第一会場の様子

平成30年度 第1回理事会議事録

日 時：平成30年4月17日（火）18時34分～20時33分

議 長：内山量史

出席理事：内山、赤池(三)、中村、赤池(洋)、池神、和泉、市川、桂川、
小池、佐々木、高橋、元木、吉澤、河西

欠席理事：梶原

<報告事項>

1. 総務部より、名称後援受諾、会員への情報提供、事務局への送付物、
会員動向が報告された。財務部より、予算書の作成、会費納入状況に
ついて報告された。
2. 県土会ニュース41号の進捗状況、HP更新内容が報告された。
3. 平成30年度の定時社員総会に向けて議案書の最終確認を行った。

平成30年度 第2回理事会議事録

日 時：平成30年5月22日（火）18時34分～20時33分

場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

議 長：内山量史

出席理事：内山量史、赤池三紀子、赤池洋、池神多加子、市川奈弥
桂川謙祐、小池京子、佐々木蘭子、中嶋崇博、元木雄一郎
山田徹、吉澤由香、河西祐子

欠席理事：高橋正和

【代表理事（会長）の選任】

代表理事 内山量史が平成30年5月17日をもって任期満了退任した
のに伴い代表理事の資格を喪失したため後任者の選定を行った。慎重
協議した結果、全員一致をもって、次の通り選定した。なお、被選定者
は、席上その就任を承諾した。

代表理事 内山 量史

内山量史代表理事は定款の規定により会長に就任した。

【副会長の選任】

全員協議の結果、副会長に赤池三紀子、赤池 洋が選任された。両名
は席上その就任を承諾した。

<協議事項>

1. 役員変更登記を行うにあたり、全理事・監事の就任承諾書・新任者
の本人確認書として住民票の準備、また、理事会議事録へ出席理事、
出席監事全員の記名押印を行うことが承認された。
2. 聾学校の見学についての検討を依頼することとなった。

<報告事項>

1. 定時社員総会、新入会員歓迎会の開催報告、各部局への予算配布、
会費納入状況について報告された。
2. 症例検討会の発表は県土会の会員のみ、参加は士会員外も可とする
ことが報告された。
3. 山梨県在宅医療多職種の会 世話人会、第23回山梨県失語症者の
つどい第1回実行委員会、山梨県在宅医療多職種の会への出席、山梨
県障害福祉課訪問について報告された。
4. 県土会ニュース41号の進捗状況とHP更新内容が報告された。

平成30年度 第3回理事会議事録

日 時：平成30年6月27日 18時37分～20時59分

議 長：内山量史

出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、市川、桂川、小池、高橋、
吉澤、河西、中嶋、佐々木

欠席理事：元木、山田

<協議事項>

1. ヴァンフォーレススポーツクラブこども夢プロジェクトへの協力が承
認され、渉外部が対応することとなった。
2. 各部局の写真管理について、撮影後1週間以内に広報部管理アドレ
スへデータを送ることが承認された。
3. 県立図書館への寄贈図書3冊が決定した。
4. ビブスのデザイン・配色が決定した。
5. 第11回学術大会の名義後援を山梨県、山梨県老人保健施設協議会、
一般社団法人山梨県介護支援専門員協会に新たに依頼することが決
定した。

<報告事項>

1. 第1回学術講演会・症例検討会・小児領域勉強会、第1回・第2
回新卒者研修が開催されたことが報告された。
2. 平成30年度山梨県リハビリテーション病院・施設協議会定期総会、
日本語聴覚士協会総会、全国都道府県士会長会議、一般社団法人山
梨県理学療法士会交流会、一般社団法人山梨県作業療法士会新人転入
者歓迎会への出席が報告された。
3. 県内高校へ県土会・ST協会リーフレットを送付したことが報告さ
れた。
4. 平成30年度山梨県訪問リハビリテーション実務者研修会が10月
20・21日に「生活期リハビリテーション研修会」の名称で開催さ
れることが報告された。
5. 第11回学術大会を11月25日に山梨大学医学部キャンパスにて
開催することが報告された。

平成30年度 第4回理事会議事録

日 時：平成30年7月20日（金）18時37分～20時47分

議 長：内山量史

出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、市川、桂川、高橋、佐々木、
中嶋、元木、山田、吉澤、河西

欠席理事：小池

<協議事項>

1. いきいき山梨ねりんピックでは、「咳嗽力チェック」を行ない参加
者に吹き戻しを配布することが決定した。
2. 県土会ニュースを国会図書館並びに山梨県立図書館に継続して寄贈
することが決定した。
3. 認知症サポーター養成講座を10月23日に開催することが承認さ
れた。

<報告事項>

1. 失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修会第1回伝達講習会の
実施、地域リハビリテーション従事者研修会第1回実行委員会、山梨
県在宅医療多職種の会、平成30年度中北広域支援センター連絡会議、
第23回山梨県失語症者のつどい第3回実行委員会への出席が報告さ
れた。
2. 山梨県言語聴覚士会失語症友の会「いじやま」設立集会を行ったこ
と報告された。

場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

書 記：窪田 光、坪井沙妃、小澤しず香

議事録作成：河西祐子

《各局からのお知らせ》

事務局

<総務部>

・会員動向（平成30年9月末現在）

正会員数 144名 賛助会員 7団体

所属変更：三井紫保先生・浅利さとみ先生（自宅会員）

改姓：弦間(土橋) 恭子先生（あけぼの医療福祉センター）

名簿記載事項に変更のあった方は「会員異動届」の提出をお願い致します。届出用紙は県士会 HP からダウンロードできます。

<財務部>

・9月末現在、10数名の方が会費未納となっています。会費納入にご協力をお願い致します。佐々木財務部長へ直接お届けいただくか、下記口座へお振込みください。（年会費：10,000円）

金融機関名	山梨中央銀行
支店名 店番	石和支店 305
口座名 番号	普通 950758
名称	一般社団法人山梨県言語聴覚士会 シヤ・ヤマナシケンゲンゴチヨウカクシカイ

学術局

平成30年度前期の講演会・研修会にご参加いただきましてありがとうございました。後期も多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

<生涯研修部>

・第3回 症例検討会

日 時：平成30年10月18日（木） 18：15～

会 場：甲府市東公民館

発表者：磯野末季先生（石和温泉病院）

バイザー：石田礼先生（山梨大学医学部附属病院）

賛助会員の講義：カレイド株式会社

・第4回 症例検討会

日 時：平成30年12月20日（予定）

発表者：柳原友佳子先生（甲府城南病院）

バイザー：赤池三紀子先生（湯村温泉病院）

・第2回 学術講演会

日 時：平成30年10月1日（金）

テーマ：「発達性ディスレクシアー音韻の発達と障害を中心にー」

講 師：原 恵子先生（上智大学大学院）

・第3回 学術講演会

日 時：平成30年12月21日（金）

テーマ：「姿勢が嚥下に与える効果を精密に考える」

講 師：福村直毅先生（健和会病院）

<教育部>

・第5回 新卒者研修会

日 時：平成30年11月8日（木）

場 所：山梨県立青少年センター本館3階 第1会議室

内 容：標準失語症検査（SLTA）- 実技演習 -

・第6回 新卒者研修会

日 時：平成30年12月13日（予定）

内 容：症例検討、1分間スピーチ

社会局

<渉外部>

・日本語聴覚士協会総会が5月26日に研究社英語センタービルで開催され、赤池三紀子代議員、中村晴江代議員が出席されました。

・失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修伝達講習会が6月29日、7月25日に春日居サイバーナイフ・リハビリ病院で開催しました。

・平成30年度地域リハビリテーション従事者研修会が8月23日に甲府市総合市民会館で開催され、実行委員として桂川理事が参加しました。

・その他関連団体や行政、地域との連携・協力に向けて会長、副会長、理事、会員が参加・協力しました。

<広報部>

・山梨県内高校への県士会・ST協会リーフレットを送付致しました。

・県立図書館への書籍寄贈およびST協会ポスター掲示を依頼致しました。

・「THE Six SENSE～医療福祉系シミュレーションゲーム～」が7月29日に山梨県立図書館で開催され、広報活動として赤池洋副会長、高橋理事が参加しました。

<会報編集・ホームページ管理部>

・会報誌「県士会 NEWS」41号が発行しました。

・ホームページには県士会やST協会関連のイベントなど随時更新しております。また会員向けのお薦め情報など、旬な情報も随時提供してまいりますので是非ご覧ください。

おかげさまで35周年

これからもやさしい聴こえのお手伝い
快適生活をサポートします



認定補聴器専門店

山梨リオン補聴器センター

甲府店 ☎0120-29-3321 玉穂店 ☎0800-800-8173
甲府市中央5丁目2-29 中央市若宮29-3 山梨大学附属病院前

私たちはシャント発声のプロフェッショナルです

喉頭を摘出された方々のQOL向上のために、シャント発声のリハビリテーションや患者さまを対象にした勉強会を行っています。シャント発声について興味のある言語聴覚士の皆さまには、実際のリハビリテーションの様子や勉強会を公開しておりますので、お気軽にお問合せください。



Atos
Atos Medical Your voice

株式会社アトスメディカルジャパン

〒104-0033 東京都中央区新川1-3-17 新川三幸ビル 2F
tel. 03 4589 2830 / fax 03 5540 0890
info.jp@atosmedical.com

HEALTH CARE FOOD
在宅 通信販売
Healthy Network



病院で使われている介護食を ご家庭にお届けしています。

- ☑ 噛むこと、飲み込むことが苦手な方に
- ☑ 飲食時によくむせる方に
- ☑ 食の細い方に

やわらかさの程度や形態別に分類されたおかず、
とろみ調整食品や濃厚流動食品が掲載
されています。また、栄養指導で
役立つコラムも多数ご紹介して
います！

とろみ調整食品は
トロミパワースマイル
がおススメ！

カタログのご請求・お問い合わせは

〒191-0024 東京都日野市万願寺1-34-3
株式会社ヘルシーネットワーク

☎0120-236-977 受付時間 9:00~17:00※日・祝除く

ヘルシーネットワーク 検索 <http://www.healthynetwork.co.jp>



かきまぜても離水しにくい新しいゼリー

まぜても ジュレ

従来のゼリーにはない特性を持った
リセットゲルになります

- クラッシュしても離水しにくい
- 再結着性(まとまり)がある
- よくかきまぜるととろみ状になる



foodcare
JAPAN

〒252-0143 神奈川県相模原市緑区橋本4-19-16 OMGビル
TEL: 042-700-0555 FAX: 042-700-7444



おいしく、たのしく、嚥下リハビリのお手伝い

摂食嚥下リハビリ食のラインナップ紹介

様々な製品を取りそろえています。

<p>毎日使うのが嬉しい 30gのミニ パック</p> <p>エンジョイゼリー</p> <p>プレーン いちご コーヒー チョコレート アップル バナナ ストロベリー りんご</p>	<p>個別の栄養成分に合わせた 食べやすいサイズ</p> <p>エンジョイカップゼリー</p> <p>いちご味 チョコレート味 アップル味 コーヒー味 りんご味 マンゴ味</p>	<p>量感をずさず食べられる40g</p> <p>エンジョイ ハイカロリーゼリー</p> <p>りんご味 せせり味</p>	<p>トロミの質の上とよきとろみ</p> <p>とろりんこ</p> <p>とろみ調整食品</p>
--	--	--	---

他にもおいしく栄養が摂れる、豊富なラインナップがそろっています。資料・サンプル等のご請求はお気軽に
☎0120-52-0050 | クリニコ 検索 <http://www.clinico.co.jp> 東京都青葉区青葉1-1-1 株式会社クリニコ

唾液のチカラで健康と笑顔を

お口をやさしくケア ペプチサル・シリーズ



Pepti-sal(ペプチサル)とは、

「Peptide(ペプチド)」+
「Saliva(唾液)」の造語。

唾液のチカラに着目して開発された
低刺激性のオーラルケア製品です。
デリケートなお口をやさしくケアし、
お口の環境を健康に保ちます。
要介護の方のケアにもおすすめです。



2014年12月発売

T&K ティーアンドケー株式会社 ☎0120-555-350 www.comfort-tk.co.jp



「医療専門家 × 医療機器ベンチャー × フードケア」
連携の新しい会社「カレイド株式会社」

何気ない普段の「おいしい、もぐもぐ、ごっくん」の三拍子が、
上手くできない方々への「あきらめない」を応援したい。

3年目のカレイド、そして
「ジェントルスティム(干渉電流型低周波治療器)」を
よろしくお願いたします。



オーエムジーファミリー QOL(生活の質)を支える「摂食・嚥下ケアカンパニー」として日本から世界へ

foodcare
JAPAN
TEL: 042-700-0555 FAX: 042-700-7444

「ケア食品」で毎日美味しく
株式会社 フードケア

CAREIDO
Japan
TEL: 042-700-8830 FAX: 042-700-8840

「ケア機器」で毎日支える
カレイド株式会社

一般社団法人山梨県言語聴覚士会ニュース

<発行所> 一般社団法人 山梨県言語聴覚士会
<発行人> 内山 量 史
<編 集> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 広報局会報編集・HP管理部

石 和 温 泉 病 院 南 曜 子
恵信梨北リハビリテーション病院 坂 本 楓
甲州リハビリテーション病院 間 宮 愛 貴
甲 府 城 南 病 院 桂 川 謙 祐・河 村 有 美
堀 内 賀 子
巨 摩 共 立 病 院 岡 田 史 佳
湯 村 温 泉 病 院 原 大 樹
山梨大学医学部 附属病院 赤 池 洋

<事務局> 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科内
〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436
TEL0553(26)4126 FAX0553(26)4366
<発行日> 2018年11月1日 第42刊